

## English Garden 第96話

"One man on a tractor can take the place of twelve or fourteen families."

John Steinbeck

### 「トラクターに乗れば一人で十数家族分の仕事がこなせる」 ジョン・スタインベック

アメリカのノーベル文学賞受賞作家ジョン・スタインベック(1902-1968)の小説『怒りのぶどう』("The Grapes of Wrath")の一節です。今年ちょうどスタインベック生誕100年にあたります。これを機に英文学界でも21世紀への指針として彼の作品を再検討しようという動きがあるようで、昨2001年には『スタインベックを読みなおす』と題する大部の論文集(中山喜代市監修、開文社出版)も刊行されました。



スタインベックはカリフォルニア州のほぼ中央のサリーナスの谷と呼ばれる地方に生まれ、生涯の大半をここですごしました。二つの山脈にはさまれたこの湿地帯は、彼の多くの作品の舞台となっています。

『怒りのぶどう』の背景となった1930年代はアメリカが大不況に見舞われた時代です。その上に1933年から3年間にわたってアメリカの中央部を「黒い吹雪」と呼ばれる砂あらしが襲い、大平原を砂丘に変えてしまいました。地主である土地会社はその機会を利用して小作人から土地を取り上げ、トラクターによる大農経営をはじめました。

土地も家も奪われた農民は、「カリフォルニアには仕事がある」といううわさに望みを託して、大挙西へ向かいました。1937年にスタインベックはペンシルヴァニアから西へ帰る途中たまたまこの移住民の大群に出会い、何日が生活を共にするうち彼らの悲惨な状況に衝撃を受けてこの作品を書いたということです。

『怒りのぶどう』はオクラホマを襲った猛烈な砂あらしの描写で始まります。6月半ば過ぎ、激しい日照りのあと重くたれこめた雨雲が思わせぶりにわずかな雨を降らせて通り過ぎると、風が吹きはじめました。強い風は何日も吹きまわって土ぼこりを巻き上げます。日光は遮られ、朝が来ても明るくならずまた夜になるというような日が過ぎていきます。ようやく風がおさまると音までも遮られ、むっとした不気味な静寂がたちこめました。

畑のどうもろこしは根元の土をえぐられ、風に吹きちぎられて干からびていました。全滅に近い畑で茫然としながらも再生に取りかかろうとする農民のところに、やがてブルドーザーが現れて畑を踏みつぶし、小作人の小さな家もこわしていきます。

元は自営農だった農民たちは、以前不作だった年に土地を担保にして銀行から借金をしたところに砂あらしの被害で借金が返せなくなり、小作農に転落しました。新たに土地を手に入れて大地主となった銀行や大農場主は、トラクターを導入して大規模な綿作りをしようと、農民を追い出しにかかったのです。地主の代理人は抗議する農民を相手に、「小作制度はもう機能しなくなっている」と語り、表題のように「トラクターに乗れば一人で12家族から14家族の代わりが勤められる」と豪語し、「銀行は利益を食って生きている怪物で、もう人間の手には負えないのだ」と銀行の論理を語ります。

代理人はさらに続けます。「カリフォルニアに行ったらどうだ。気候は温暖でオレンジがたわわに実り、いつでも仕事があるそうだ」。事実、カリフォルニアでは果実摘みの労働者を多数募集しているというピラが多く出回っていました。

小作人は抵抗してもむだなことを知っていました。争えばすぐに保安官や軍隊が来るし、かっとなって殺したりすれば殺人犯になります。こうして土地を追われた多くの農民は、わずかな家財道具をトラックに積み込んで西へと移住して行くのでした。

ジョード一家もそのようにして家を失った家族の一つでした。ちょうどそのとき、次男のトム・ジョードが、4年間の刑務所生活を終えて帰ってきました。酔っ払った上での喧嘩で人を殺し、7年の刑を言い渡されましたが、仮釈放となったのです。ヒッチハイクで帰る途中で幼いころ洗礼を受けてもらった説教師のジム・ケーシーと出会い、一緒に故郷に帰ってみると、家はこわされ、庭には綿の木が植えられていました。ジョード一家はジョン伯父のところに身を寄せていました。家財を処分してカリフォルニアへ移住することにしたのです。トムは当惑しました。仮釈放の規則ではオクラホマ州から出ることが禁じられています。しかし、旅に出る一家にとって自分の存在は不可欠であることを悟り、一緒に行くことを決意しました。

家財道具を山と積んだ古トラックに乗り込んだジョード一家 祖父、祖母、父、母、ジョン伯父、兄のノア、トム、運転のできる弟のアル、幼い妹のルーシーと弟のウィンフィールド、妊娠中の妹のローズ・オヴ・シャロンとその夫のコンニー・リヴァーズ は、ジム・ケーシーも乗せ、わずかに154ドルの現金を懐に、オクラホマ州東部からカリフォルニアを目指して出発しました。(次回に続く)

この文書の著作権は株式会社富士通アドバンストソリューションズが保有します。許可なく複製、転用、販売などの二次利用することは禁じます。雑誌書籍、広告など出版物への掲載にあたっては、お手数ですが、事前にご連絡願います。